

市民生活に根ざした「公共施設再編計画」の策定を求める請願

＜請願要旨＞

いま町田市では、身近な公共施設を統廃合しようとする計画が進められています。先に公表された「公共施設再編計画（案）」や「町田市5ヶ年計画17-21」には、いくつかの地域図書館の廃止、市民文学館や博物館の存廃の検討、生涯学習センター等への集会施設の集約、各施設の民営化など、市民の知る権利や学習権に大きな影響を及ぼす方針が数多く掲げられています。

特に「施設再編計画（案）」では、施設の「集約化や複合化・多機能化」の推進と共に、「新たな価値の創出」という言葉が多用されていますが、その内容にはほとんど具体性がなく、単なる美辞麗句と思わざるを得ません。この計画では、「新たな価値の創出」は置き去りにされたまま、身近な公共施設の廃止だけが着々と進められるのではないかと危惧する市民も多いのが現状です。

この度の計画の背景に、公共施設の老朽化や高齢化・人口減少等による将来の深刻な財源不足があることは理解できますが、計画策定の上で重要なことは、これから多くの市民が地域で生き生きと暮らすために、何が本当に必要かをしっかりと見極めることです。そのためには、いま市民がどのような状況に置かれ、何を望んでいるのか、市民の幸せとは何か、といった本質的な事柄と真摯に向き合い、行政と市民が力を合わせて、じっくりと計画を練り上げる必要があります。ところが、6月24日から10回にわたって各地域で行われた説明会は、広報不足もあり参加者がいずれも10名前後と低調なもので、これでは43万市民に対する説明の機会としては、甚だ不十分と言わざるを得ません。

そこで、市民生活に根ざした「公共施設再編計画」の策定を求めて、次の項目を実施されるよう請願します。

＜請願項目＞

1. 「公共施設再編計画」の策定に当たっては、積極的な情報公開を行うとともに、市民との意見交換等による合意形成のための十分な機会と時間を確保すること
2. 各施設の具体的な計画案、または見通しについて早急に市民に提示すること